

令和3年度第1回伊勢市産業支援センター運営協議会 議事録

- 1 日 時：令和3年7月14日（水）10：00～12：00
 - 2 場 所：伊勢市産業支援センター 研修室
 - 3 出席者：委員13名
事務局 商工労政課：東世古課長、南主幹、山中
産業支援センター：澤村センター長
欠席者：2名（河井委員、牛場委員）
 - 4 概 要：内容は以下のとおり。
 - (1) 課長より開会のあいさつ、新たな委員の紹介
新たな委員：奥山委員、木本委員、松井（柁）委員、佐々木委員
 - (2) 議題
 - ①正副会長の選任 会長：石川委員、副会長：濱口委員
 - ②令和2年度事業結果報告
産業支援センター担当より資料に基づき説明。
- (主な意見等)
- ・起業支援については国も助成金を出したり大学も起業家を育てようということで三重大学も25人の先生を選んで、起業できるテーマを絞るように中央からいわれている。学生が起業を目指すには、社長や経営をしている人とのマッチングが必要である。就労支援の地元企業説明会はとても必要な事業。学生は市内にどのような企業があるかを知らない。市内の高校だけでなく、志摩市や鳥羽市、南伊勢町など近隣の市町の高校に向けても説明会を実施していただきたい。
 - ・今回、地域企業に修学旅行生の受け入れができたことはラッキーだ。就学旅行の受け入れを可能にし、市の企業がまとまってサービスを行い、各企業で数名ずつの研修をやるのもよい。もっといえば中学生に対しても企業と一緒にあって宣伝すると良い。未来に発展できる事業だと思う。
 - 伊勢市や関係機関とのすみわけや、学校や企業がどう思っているのか、難しい問題もある。先生の負担になるという理由で中止になった学校もある。一機関でかかえるのではなく、輪を広げて他機関とも連携して取組んでいきたい。
 - ・伊勢市や三重県は卒業すると外へ出ていく傾向が強い。外へ出て経験を積んだ人が帰ってくる仕組みを作らないといけない。迎え入れを積極的に検討したらどうか。
 - ・地元企業、地域に貢献できる人材育成に取り組んでいる。3月までは市外の高校にいたが、地元の企業の説明会をまずは望むが、伊勢市の企業にも説明会をしてもらっていた。伊勢市の企業が近隣の市町の学校等に説明会を行うことも重要である。

県の商工会連合会が企業説明会をコーディネートしているので、伊勢市も県と連携して取り組んだらどうか。

・企業訪問はどのようなことを工夫されたのか。成果があれば教えてほしい。
→まずは就労支援について、なるべく（対象の企業の）枠を広げながら色々な機関と連携をとりながら、学校や企業の負担にならないようなるべく重複はさけたいと考えている。また、オンラインの活用は地域内の活用しかできていない。オンラインも地域を超えたところで今後活用していきたい。例えば地元の高校生がいく学校はだいたい決まっていると聞いている。そういったところでネットを活用しながら情報を届けていきたい。地域にこだわらず県の協力も得ながらより良い形で情報を届けられるようにしていきたい。

続いて企業訪問だが、2名配置しており、専門機関と連携しながら事業者の課題解決を図っている。専門的なことになるとセンターの職員だけでは対応は難しいので、他の専門機関と連携して支援を行っていきたい。

→伊勢市のみならず広域で、産業支援センターの直接の事業ではないが、行政的な動きとして、事業者さんの紹介のため三重県で「おしごと広場みえ」というサイトがあり、県内の企業の情報を登録できるようになっているが、県南部は事業者数も少ないため掲載数も少ない。松阪市が中心となって松阪市以南の16市町で連携して南三重地域就労対策協議会を一昨年つくった。そこでの取り組みとして、サイトを作って、松阪市以南の事業者が登録し、情報発信できるようにした。学生に対しては高校生に向けて、メールアドレスを確認させていただき、事業所の情報を発信していこうと動いている。情報発信不足のところもあり、登録者数が増えていないので、産業支援センターや商工会議所や商工会の協力を得ながら、伊勢市の登録事業者数も増やしていきたい。

今年度の市の事業として事業者が採用に向けて事業所紹介の動画を作る際の補助金（伊勢市地元企業就職PR動画制作補助金）も作ったので、そのような補助金も活用していただきながら事業者さんに情報発信をしていただきたい。

・そのサイトのことは知っているが、どちらかといえば大学生向けである。高校生は学校の先生の指導が大きいので、個よりも学校に向けた取り組みも重要である。伊勢と松阪と玉城町は立場が違う。他は過疎地域。過疎が進んでいる他の町からすると伊勢市の悩みとは程度が違う。ミスマッチなところがあるのではないか。
→その話もさせてもらった。各市町にしても、人口が少ないことで自治会のイベントなどの実施すら難しい。働くのは他市でもいいのでまずは地元に住んでもらいたいというのが切実な思いである。担当レベルはご指摘のあった話も共有させてもらっている。

③令和3年度事業概要

産業支援センター担当より資料に基づき説明。

今年度の重点事業としては、コロナもあって加速しているニーズである、事業承継の支援とIT導入・DX化の支援の2つ

(主な意見等)

- ・産業振興会でも「伊勢ブランド」を立ち上げてモノづくり、商品づくりを支援しているが、商品づくりは奇をてらったようなものも多い。いいものでも売り先が無いと難しい。安く売りさばいてしまう傾向があり、そこから（価格を）上げるのは難しい。商品づくりや利幅を考えるように指導していただくと良い。
- ・値段や販売先については中小企業は苦勞している。伊勢市の場合、買う方も安く当たり前、地域でも大事にしてほしいし、外へも売っていけるような窓口を作ってもらえるとありがたい。
- ・就労支援に関して、従業員がすぐにやめていくという問題がある。企業側としてもホームページを作るなど、情報発信が重要。ビジネスフェアは単独でいけないところでも行けるので、連携してさせていただきたい。
- ・人材育成については、ポリテクセンターとのすみわけもしっかりして、（産業支援センターで）目立つもの、面白いものを考えていくとよいのでは。
→年間スケジュールで決まっているものもあるが、より効果的な支援をすすめていきたい。
- ・自社ではブランディングや海外も視野に新しいアイデアを入れてやっ払いこうと取り組んでいる。
 - ・今年度もイベントができていないが、一刀彫でネットでの注文に対応できないかという問合せをいただき、ネットでの対応をしたところ喜んでいただけた。このような形で情報提供をしていきたい。

④伊勢市より事業紹介

資料に基づき説明

⑤産業支援センターの現状と今後について

資料に基づき説明

約2年間かけて必要な支援内容・方法を検討し、産業支援センターの今後の方向性を決定していく。

(主な意見等)

- ・伊勢市にはリーダーシップをとってほしい。広域の場として、伊勢市に人を集めて他市町も助けるといふ産業の在り方があってもよい。商工会議所とは違うことのできる仕組みをもっているセンターにしたらセンターの意義が出てくるのでは。たと

えばおかげ横丁に志摩や鳥羽の人が店舗を出すだけでも市の収益になる。市や商工会議所ではできない広域のものづくり、広域の取り組みの場としてきちっと位置付けることが大事なのではないか。伊勢市が主導として広域でできることがいっぱいあると思う。観光は広域でされている。

→コンベンションは広域でしている。また、定住自立圏で広域で事業を進めているものもある。ただ、広域でそれぞれの市町から負担金を集めることは、それぞれの市町の考えもあるので、慎重に考えていかないといけない。

・総務省と文部省で地域連携促進事業がはじまっているのでは。

→定住自立圏という枠組みの中で各分野ごとに、参加するかどうかは各市町の判断の中で、産業部門のみならず福祉・健康・医療などで取り組みをさせてもらっている。

・広域連携は必要だと思うが、市町で得意不得意がある。伊勢や鳥羽は観光、商売となると松阪市の方が得意なのではと思うので、連携はとっていただきたい。

・松阪市との連携はどうなのか。

→松阪は商売上手。伊勢はどちらかというとのんびりしている。何か取組をしようとしてもものってきけてくれない。「伊勢ブランド」を始めるときも、もう少し申込があるかと思ったが、そこまでではない。(制度があっても)それぞれの取組の告知が下手なのかもしれないが認知度が上がっていかない。定住自立圏という枠組みの中で考えていくのが一つ、商工会議所・商工会や産業支援センターそれぞれの役割、市の役割、3者のきちとした役割分担をすることも必要。別々のところで似通った事業をやっても効果も薄れる。ニーズを含めた上で、どこがどういう支援をするのかをきちっと整理していく。その上でどこと連携してどのように取り組んでいくのか、そういうところから(産業支援センターの今後についてという議論)がスタートしているということをご理解いただきたい。

・地域を考えた場合、産業・観光含めて、アンテナショップがあると良い。モノづくりを個々の事業所で行っても、販路がなかなか見つけられないという問題がある。商品をブラッシュアップしても出す場がない。三重テラスもあるが伊勢にあるとよい。

・三重のものを集めて売ってらっしゃる事業者さんはある。

・気軽に利用できる公共の場としてあるとありがたい。

→産業としてではないが、学生のチャレンジショップ的なものはある。宇治山田のショッピングセンターなど、期間を設けて実験的にしたらどうかという企画は立てている。木工産業の方で新商品を置いてもらえるところが欲しい、という相談を受けたことはある。

商工会議所と商工会が連携した伊勢志摩経済サミットでは、2・3年前おはらい町の一角をかりてチャレンジショップ的なものしていた。伊勢・鳥羽・志摩当番制

で行っていた。ただ、商工業者の集まりで終わってしまうので、もっと大きな形になると、より多くの参加がいただけるのではないか。

- ・生産の労働人口が確実に減っている。労働力の確保が難しくなる。学校、企業、行政が連携して地元や地元企業を盛り上げてほしい。
- ・産業支援センターがどのように動くかによっては、例えば学生や企業のマッチングなどを考えるのであればもっと街中にあつたほうが良いのでは。学生が立ち寄って、相談できるような場所の方がよい。今の学生は自分のやりたいことよりも、自分のレベルで入れるところに就職する傾向があるので、意識を高めていけるような取り組みをしていただきたい。
- ・自分の人生設計についてはキャリア教育ということでやっている。工業高校に入ってもらうには中学生にアピールするのでは遅いという話もでている。小学生や保護者、教職員にもアピールしないといけない、教育界としては、ここでの話を受けて、人間教育、基礎教育を精一杯行っていきたい。地元で貢献できる子供たちを育てていけるよう取り組んでいきたい。

議題⑤に関して、次回秋ごろに臨時で運営協議会を開催することとなった。